最終)

学校教育目標

人間性豊かで 創造性に富み たくましく生きる子どもを育成する

『 感動 』 ~ 自分に 仲間に ・・・に ~

【めざす学校像】『独創教育』の理念を基に、工夫・追求・徹底・協働によって<u>新たな価値</u>を創造する学校 【めざす児童像】何事も<u>自ら進んで「正しく</u>強く優しく永く」やろうとする子ども 【めざす教師像】<u>笑顔</u>で寄り添い、子どもの心に共感する教職員

	評 価 計 画						自 己 評 価					学校関係	名評価	
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	10月 達成値	2月 達成値	達成度	評価	結果と課題の分析(○成果▲課題)		不適正 分からない	コメント	改善方策
体的に学	やる気に満ち、こさに満ち、こさを にで楽と質い、 で味わい高めていいめ 童の姿	今求められる「独創力」を明らかにし、それを引き出し発揮させる学びの在り方を追求し、資質・能力を高める	・「独創力」やそれを構成する資質・能力を育成する手立てを考え、授業改善及び授業研究を行う。 ・「やりがい 自信 仲間のサポート」を実感できる働き方改革を推進し、教育の質を高める。	・課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・CRTの達成度(活用) ・正答率40%未満児童の解消	児童評価 90% 低75% 中70% 高70% 40%未満の 割満にする	- -	91% 13項目/16 項目 2.7%	100% 81% 100%	A B	○児童は、日々の学習において、学習課題を意識し、その課題の解決のために主体的に取り組むことができている。また、学力調査の結果は、目標値には届かなかったものの、各学年全国平均より10~16ポイント高く、児童の学力を高めることができたと考える。共創思考を働かせる指導の工夫により、日常の授業が改善され、結果につながった。 ▲どの学年にも共通して、国語科は記述で答える問題、算数科は立式、理科は事象の説明に課題がある。 ○正答率40%未満児童の解消については、目標値を達成することができた。授業やスキルタイムなどでの個別指導、基礎基本の習熟の成果だと考える。	0		はなく、昨年度までの西 条小外という。 ・ 一次を決したり、 ・ 一次の見とがである。 ・ 一次の見とがである。 ・ 一次の場合がである。 ・ 一次を表示した。 ・ 一次を表示した。 ・ 一次を表示した。 ・ 一次を表示した。 ・ 一次を表示し、 ・ 一次を表示し、	・授業改善の視点として取り組んでいる「共創思考を働かせる 工夫」における「深い学び」と「協働的な学び」のさらなる充実を 図るとともに、「協働的な学び」における対話の質を上げるよう、 対話する場面、目的、環境等を再検討する。 ・スキルタイムや家庭学習の在り方を再検討し、正答率40%未 満の児童に対して、個別指導や具体的な手立てを講じたり、す べての児童の学力の向上に向けた取組にしていく。 ・同一集団の経年比較や、個人の変容等の視点を取り入れな がら、学力の目標値を再設定する。
		本が好きになり、 進んで読書を行う 意欲や態度を育 てる	・読書による感動を味わったり感動したことを紹介したりする活動を行う。 ・委員会活動を活性化させ、目標設定やイベントを工夫して実行する。	・友達に薦めたい本がある・本を読むのが好き	児童評価 95% 児童評価 85%	94% 85%	97% 88%	102% 103%	A	〇児童が進んで読書活動を行い、読書を好きになることができるように、「感動」をキーワードとした活動を昨年通り継続して行った。各学級における児童相互でのおすすめの本を紹介や、他学年からのテレビ放送による読み聞かせを行ったり、読書と各教科を関連させて行ったりすることで、読書の興味の幅が広がったと考えられる。また、図書委員会が様々なイベントを開き、児童の読書意欲を喚起した。さらに、家庭へ読書の啓発を行い、家庭での読書を促した。これらの取組により、読書に親しむ児童がさらに増えた。	0		い。	・「感動」をテーマとした取り組みを継続して行う。各教科との関連を工夫したり、ICTを活用したりするなど新たな取り組みも考えていく。 ・学校で高まった読書意欲を、家庭での読書につなげる取組を行う。また、保護者への働きかけを工夫する。
ふるさとを愛する	西条小・西条町に 誇りと愛着をもつ 児童の姿		・開発単元における体験活動の工夫・充実を図り、学校や地域の人・伝統・文化の素晴らしさを実感させる。	・学校大好き ・西条への愛着	肯定答 95% 肯定答答 的率 95%	95% 98%	95% 98%	100%	А	〇生活科・総合的な学習の時間では、6年間を通じて西条の町や伝統産業である酒造りを軸として系統的な学びを展開した。各学年において西条小学校や西条の町の人や社会、自然等と、自分とのつながりに気付いたり、積極的に働きかけたりする学習を行ってきた。新型コロナウイルス感染症のため、活動内容が制限されることも多かったが、ICTの活用等、児童が知恵を絞り、自分たちにできることを実行できるようにした。また、地域の現状や児童の実態に合わせて新しい単元開発を行い、必要感のある課題設定や多様なGTとのつながりを通して、ふるさと西条について多面的・多角的に学ぶ児童の姿を目指した。それらが、学校や地域への愛着を高めることにつながった。	0		学びが「学校ぐるみ博物館」になるとよい。 ・児童が学んだことをもっ と地域や保護者に発信し	・学習の振り返りを充実することで、前学年とのつながりを意識 させ、6年間の系統を児童自身も感じながら学習に取り組むこと ができるようにする。 ・実施時期や形態、方法などを工夫し、児童が地域の人・伝統・ 文化と深く関わる体験活動をさらに充実させていく。
教育課程を社会に開く	子供像を教職員・	校訓に込められ た価値と児童が 感動を味わう姿	・感動(心が揺れ動いたこと)を	・「校訓の価値」「感動」のイメージに対する達成度 ・感動体験を語れる児童	児童評価 95% 児童・教職 員・を護評価の 差10%以内 児童評価 90%	97% - -	98% 教職員評価 97%(差1%) 保護者評価 93%(差4%) 94%	103% 100% 104%	A A	○3年生以上で、「鐘なし日」を実施した。児童は自分のやりたいことを考え、自分で計画を立てて活動し、その活動を振り返り次に生かそうとすることができた。それが児童の「校訓の価値」「感動」のイメージに対する達成度を向上させたと考える。 ○年度初めには、全教職員で「感動」する児童の姿のイメージを共有し、各学級でも「感動」のイメージを話し合った。学期や行事の前後には、学級で「どのように取り組むことで感動につながるのか」「何に感動することができたか」を話し合うようにした。これらの取組により、教職員と児童で目指す姿を共有することができた。また、取組の中で見られる児童の「感動した姿」をHP・学校だより・学年だよりで紹介したり、感動した自分や友達の姿を出し合い、掲示したりすることにより、保護者ともイメージを共有することができた。	0		・学校経動としているである「感し、性質を表現しているでは、性質を表現してない。 一切を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	・学校行事やPTA講演会、通信やホームページ等を活用して、 学校経営目標を保護者と共有する機会を設けることで、学校と 家庭が連携して児童の育成に向かうことができるようにする。